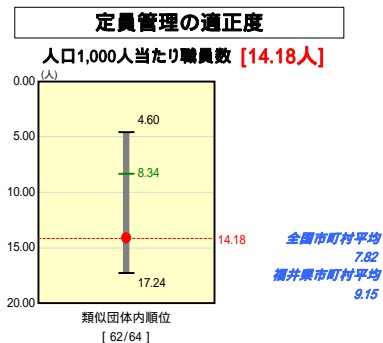
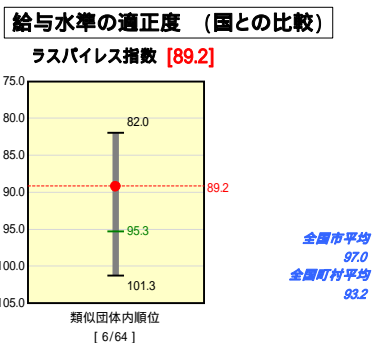
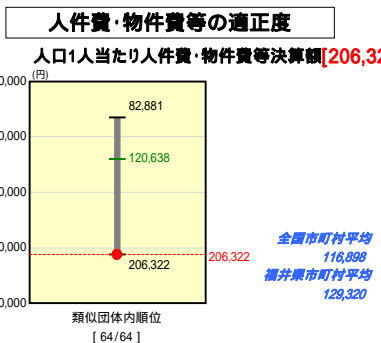
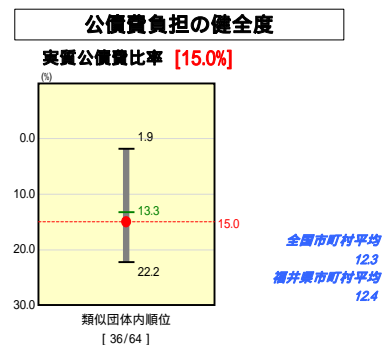
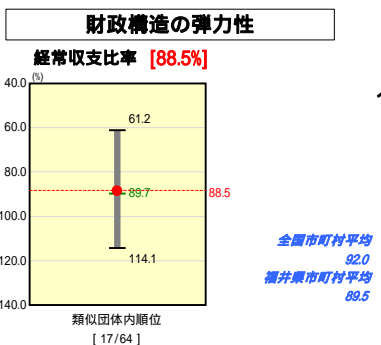
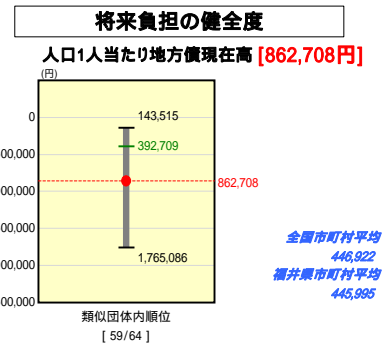
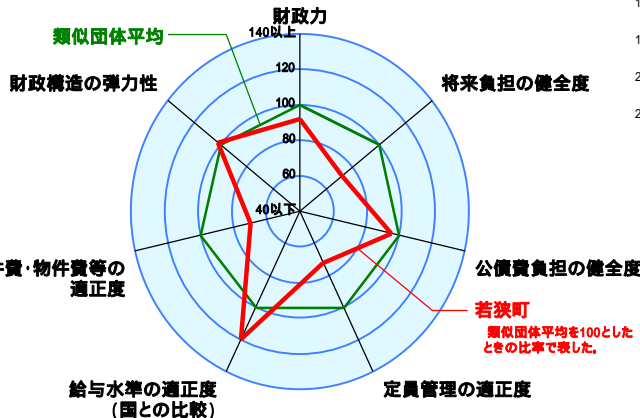
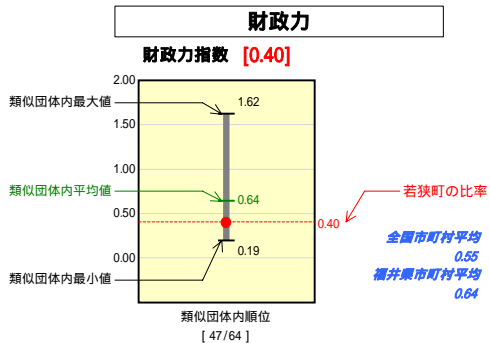


市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

福井県 若狭町

人口	16,851	人(H20.3.31現在)
面積	178.65	km ²
歳入総額	12,574,560	千円
歳出総額	12,292,341	千円
実質収支	274,775	千円



人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析概

平成17年3月31日に、旧三方町、旧上中町が合併し、若狭町となった。

財政力指数
財政力の低下に加え、町内の中心となる産業がないこと等により、財政基盤が弱いのが現状である。また、経済の低迷による個人・法人関係の税収が伸びない状況が影響し、類似団体平均を下回っている。限られた財源を活かし、活力あるまちづくりを展開するために、行政の効率化に努め、財政の健全化を図る。

経常収支比率
人件費や扶助費は類似団体平均より下回っているものの、物件費や補助費等は依然として類似団体平均を上回っており、対前年度比5.2ポイント上昇し88.5%となった。今後は、地方税等が収収することを念頭に置き、物件費や補助費等を、事務事業の点検・見直しにより削減を図るとともに、退職者不補充等による職員数の削減を更に進め、現在の水準を維持していく。

ラスパイレス指数
昨年度と同く89.2であり、類似団体と比較しても依然として低い水準にある。財政状況が厳しいことから、引き続き職員数の削減を図り人件費の抑制を進め、事務事業の点検・見直しによる経費削減を図る。

実質公債費比率
普通建設事業費に係る起債の償還等に併し上昇し、類似団体平均をやや上回っている。今後は、繰上償還とあわせて、町の総合計画に基づいた事業計画を再整理し、住民ニーズを的確に把握した事業の選択と、より有利な財源確保に努め、起債に大きく頼ることのない財政運営に努め、18%以下を維持できるよう努める。

人口1人当たり地方債現在高
類似団体平均を上回っている主な要因として、平成15～17年度に実施した福祉・保健総合拠点施設整備事業、平成17年度の合併地域振興基金積立及び平成17～19年度に実施した地域福祉推進拠点施設整備事業に係る借入れであり、今後も合併関連事業への取り組みにより増加傾向にあるが、事業の選択・事業計画の見直し等により、新規地方債の発行の抑制に努める。

人口1,000人当たり職員数
集中改革プランに基づき、退職者の補充を抑制していることから、職員数は毎年減少しているが、平成17年3月の合併の影響もあり、類似団体平均を大きく上回っている。今後民間委託の推進、指定管理者制度の導入、公共施設の統合などにより、職員数の削減に取り組む。

人口1人当たり人件費・物件費等決算額
類似団体中最も高い額となっている要因として、人口に対する職員数の割合が類似団体と比較して高いことと、平成18年度に福祉・保健総合拠点施設が全館オープンしたこと。合併後の住民サービスの低下を招かないよう庁舎の分庁舎の採用や出先機関等の存続などから、物件費が嵩んでいることがあげられる。今後は、各施設の維持管理費の削減や出先機関等の統廃合、指定管理者制度の導入などにより、人件費を含めたコスト削減を図っていく。